

# 食品に関するリスクコミュニケーション（東京） BSEと牛肉の安全性

開催日：2005年11月4日（金）

参加者数：112名 回答数：73名 回答率：65%

## 問1. あなたご自身のことや食品の安全性に関するお考えについてお聞きします。

### 年齢

回答内容	件数	割合
1. 20歳未満	1	1.4%
2. 20歳代	6	8.2%
3. 30歳代	11	15.1%
4. 40歳代	26	35.6%
5. 50歳代	13	17.8%
6. 60歳代	12	16.4%
7. 70歳以上	3	4.1%
無回答	1	1.4%
	73	100.0%

### 職業

回答内容	件数	割合
1. 消費者団体	16	21.9%
2. 主婦、学生、無職	3	4.1%
3. 生産者	0	0.0%
4. 食品関連事業者	26	35.6%
5. マスコミ	4	5.5%
6. 行政	11	15.1%
7. 食品関連研究・教育機関	2	2.7%
8. その他	8	11.0%
国会関係・外国大使館		
食肉に関する包装資材販売、開業獣医師		
NPO法人、認証審査機関、地域活動栄養士会に所属		
無回答	3	4.1%
	73	100.0%

## 本日の意見交換会開催をどこでお知りになったか

回答内容	件数	回答者数に対する割合（複数回答）
1. 食品安全委員会のホームページ	43	58.9%
2. 食品安全委員会からのご案内資料	14	19.2%
3. 関係団体からのご案内資料	9	12.3%
4. 知人からの紹介	4	5.5%
5. 新聞、ポスター、チラシ	1	1.4%
6. その他	4	5.5%
電子メール、食の安全エクスプレス		
メールマガジン、飼料日報		
無回答	1	1.4%
	76	

## 本日の意見交換会に参加された動機

回答内容	件数	割合
1. BSEおよびプリオン研究の国際的な最新知見を得るため	35	47.9%
2. 牛肉の安全性に興味があったから	4	5.5%
3. 現在、意見・情報募集が行われている米国・カナダの輸出プログラムにより管理された牛肉等に係る食品健康影響評価案に興味があるため	10	13.7%
4. 日本のBSE対策に対する不安感があったから	2	2.7%
5. 政府や専門家に直接意見を言いたかったから	2	2.7%
6. 業務の一環として参加する必要があったから	9	12.3%
7. 政府の行うリスクコミュニケーションの取組みについて知るため	3	4.1%
8. その他	1	1.4%
食品安全委員会に送った米国の汚染度にかかわる重大な情報が無視されたため何故かききにきた。また答申案に重大な間違いがあるのでその件を指摘してきた。		
無回答	7	9.6%
	73	100.0%

「100%安全な食品はないこと」について、あなたはどのように思われますか。

回答内容	件数	割合
1.強くそう思う	47	64.4%
2.ややそう思う	15	20.5%
3.あまりそう思わない	1	1.4%
4.全くそう思わない	3	4.1%
5.わからない	2	2.7%
無回答	5	6.8%
	73	100.0%

問2. 本日の意見交換会の実施方法についてお聞きします。

意見交換会開催時期（意見募集期間中に意見交換会を開催することについて）

回答内容	件数	割合
1.とても適切だった	14	19.2%
2.適切だった	43	58.9%
3.あまり適切ではない	7	9.6%
4.全く適切ではない	1	1.4%
無回答	8	11.0%
	73	100.0%

開催方法（参加手続き・場所・所要時間）

回答内容	件数	割合
1.とても適切だった	8	11.0%
2.適切だった	53	72.6%
3.あまり適切ではない	5	6.8%
4.全く適切ではない	1	1.4%
無回答	6	8.2%
	73	100.0%

配布資料

回答内容	件数	割合
1.とてもわかりやすかった	8	11.0%
2.わかりやすかった	44	60.3%
3.わかりにくかった	14	19.2%
4.全くわからなかった	0	0.0%
無回答	7	9.6%
	73	100.0%

専門家による講演

回答内容	件数	割合
1.とてもわかりやすかった	11	15.1%
2.わかりやすかった	44	60.3%
3.わかりにくかった	10	13.7%
4.全くわからなかった	0	0.0%
無回答	8	11.0%
	73	100.0%

意見交換時の応答

回答内容	件数	割合
1.とてもわかりやすかった	6	8.2%
2.わかりやすかった	41	56.2%
3.わかりにくかった	12	16.4%
4.全くわからなかった	0	0.0%
無回答	14	19.2%
	73	100.0%

意見交換会全体

回答内容	件数	割合
1.評価する	18	24.7%
2.おおむね評価する	39	53.4%
3.あまり評価しない	4	5.5%
4.全く評価しない	0	0.0%
無回答	12	16.4%
	73	100.0%

問3. 食品安全委員会の取組のうち、ご存知のものあるいは利用したことのあるものを全て選んでください。

回答内容	件数	回答者数に対する割合
1.委員会、専門調査会の傍聴が可能なこと（原則公開されていること）	59	80.8%
2.食品安全委員会のホームページ	61	83.6%
3.食の安全ダイヤル	34	46.6%
4.食品安全モニター制度	40	54.8%
5.季刊誌『食品安全』	43	58.9%
6.食品の安全性に関する政府広報	34	46.6%
7.その他	0	0.0%
無回答	6	8.2%
	277	

**問4. 今後食品安全委員会の行う意見交換会で取り上げてほしいテーマはありますか。**

回答内容	件数	回答者数に対する割合
1. 残留農薬	18	24.7%
2. 食品添加物	19	26.0%
3. 食品中に混入する汚染物質	17	23.3%
4. 遺伝子組み換え食品	27	37.0%
5. 動物用抗菌性物質	22	30.1%
6. BSE	28	38.4%
7. 有害微生物・ウイルス	17	23.3%
8. 新開発食品	7	9.6%
9. リスクコミュニケーション	10	13.7%
10. その他	6	8.2%
アクリルアミド、トランス脂肪酸など食品の変化物質について		
鳥インフルエンザ、肥料、寄生虫		
無回答	6	8.2%
	177	

(複数回答)

**ご意見・ご感想**

1	・米国に関しての情報をもっと知りたかったです。・専門的な用語が少し多かったように思います。・結局、牛肉のリスクがどれくらいなのかを明言してほしかったです。
2	今までのBSEのリスクコミに比べ、参加者が少なかった。これは何を意味しているのだろうか。もっともいつもの消費者団体の人は参加していたが、TVも日テレ1社！
3	1、食品安全委員会の責務として、食品の安全性を科学的に明らかにするという使命があると思う。このため、科学的安全性の評価結果の事実(わかっていること、わからないこと)を、きちんと公表してほしい。(なぜ安全なのか、なぜ問題なのか) 2、政治的判断などのあいまいな評価はしないでほしい。
4	同時通訳の方のうち、1名の方の通訳が下手だったと思います。博士の話は良さそうなのに、惜しかったです。
5	プリオン学者でない一般の人にとっては、説明が専門的であり、また講演のスピードが速すぎだと思います。
6	霊長類におけるBSE経口感染リスクが示されたのは良かったと思います。
7	カメラのフラッシュで、レシーバーにノイズが入るので、カメラ撮影は講演中はやめるべき。聞きづらい。
8	ラスメザス博士の講演のみでなく、食品安全委員会の諮問について説明してほしい。
9	博士の応答はすばらしかったと思う。質疑応答の時間がきちんととられていてとてもよかったと思う。
10	リスクコミュニケーションを行ったことで、食安委の活動や食品安全政策にどのような影響があるのか知りたい。
11	食品の安全に関する意識の向上が著しい中、最新の知見について、大いにこの種の会を続けていただきたい。
12	同時通訳が分かりにくい。
13	非常に興味深い内容でのリスクコミュニケーションであったと思います。しかしながら、専門性が非常に強く、さらにワンクッションを置いて、本当に安心・安全を求めている消費者にまで、理解しやすい形で、伝えることを望みます。
14	米国の飼料管理のずさんさについて、食安委が情報を持っているにもかかわらず、今回の答申に反映されないのはなぜ？ 脳せきずいのSRM由来の肉骨粉と牛脂が32万トン、死亡動物から25万トンの肉骨粉と牛脂が飼料に入っている。鶏もたべている。鶏糞+鶏舎ゴミ(チキンリッター)が100万トン牛にたべられ、そのうちの30万トンが肉骨粉と氏がみつもてる。その中には、鹿は禁止されず混入している。(はんすうどうぶつ規制がない。) 代用乳などに入っている牛脂は0.15%と規制しても現実には液状で不安定のため濃度にむらができ、高濃度の部分ができるとの現場の指摘がでていて専門調査会でも に指摘された答申に反映されないのはなぜか。情報・意見を出しても結局それが公開審議の場で一切出ず、国民につたわらず、食安委の不信への原因になっている。改善してほしい。
15	食品安全委員会への質問があってもよいのではないかな。
16	プリオン専門委員との意見交換を期待していましたが…。専門家による講演はむずかしかったと思います。
17	海外の研究者の講演の中で一番わかりやすかった。
18	ホテル使用は会場が不適切。税金のムダ使い。2、BSEについて不明な事が多過ぎる事が解った。
19	月齢の線引きはリスク管理のポリシーの問題。これが本日得た知恵です。淡々としたすすめ方が納得できました。
20	今回はプリオン研究の最新知見を得ることができ、非常に有意義でした。ラスメザス博士もわかりやすく説明してくれていたと思います。
21	同時通訳の日本語がわかりにくい。正確に内容が伝わっていない様に思う。畜産に関する専門用語の日本語訳に問題があると思う。専門性のある内容なので、十分な通訳で対応して欲しい。
22	メキシコ産、中国産、オーストラリア産の牛肉は、輸入される条件として、特定危険部位の除去を必ずすべきと思う。国民に安全を保証するために。
23	講演が少し足らずであり、出来ればもう少し時間をとって、くわしく説明を聞ければ良いと思います。例えば現在の知見と日本が取っている施策との妥当性や、国によって異なった対応があるが専門家の考える妥当な対応方法等、コストとリスクのバランスについて現在の折り合い点を話して頂けると有り難いと思います。 プロジェクターでカラーの資料は有料で良いので、カラー資料にして頂いたほうが読みやすいです。

**一部、個人に関する情報を と記載させていただいております。**